

気 三 第 1 8 2 号

平成20年10月20日

国土交通省道路局長 様

気仙沼市長 鈴木



今後の道路行政についての意見・提案の提出について(回答)

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼のありましたこのことについて、別紙のとおり意見を申し上げます。

今後の道路行政についての意見・提案

道路行政全般について改善すべき点、要望や意見など

宮城県気仙沼市

公共交通体系の整っている都市部と違い、産業・経済活動はもとより、日常生活の全てにおいて自動車交通に依存している地方においては、道路が重要な社会基盤であり、市民の行政に対する要望事項として、常に道路整備が多くを占めている現状にあります。

しかしながら、地方の道路整備は都市部に比べ大きく遅れており、住民ニーズに対応する多様な行政サービスを展開する中で、計画的な道路整備を進めるための財源確保が、非常に困難な状況にあります。

地方では、少子高齢化の進行や若年層の流出、地域経済の低迷など厳しさを増す中で、地域間の格差が顕著となっていることは、国土の均衡ある発展の基盤の一つである道路整備の不均衡も一因となっております。

このことから、地域格差を是正し、産業の活性化と市民が安全で安心して豊かな生活を営むために、国の責務として次の事項について特段の配慮がなされるよう要望します。

- 1．三陸縦貫自動車道をはじめとする高規格幹線道路ネットワークの整備にあたり、事業の重点化・効率化におけるこれまでの費用対便益の原則の基では、地方の道路整備は益々遅延することとなるので、救急救命時の搬送時間短縮便益、事故や災害時における通行止めに伴う損失回避便益、地震や津波災害など大規模災害発生時の救命・救助、復旧活動の迅速化便益などをふまえるとともに、建設コストについても、平地部と比べ割高になることから地形特性に応じた補正を行うなど、地方の実情を鑑み、地方の「真に必要な道路」の早期整備を図ること。
- 2．地方の生活幹線道路はもとより一般生活道の整備に係る補助制度の充実や、地方道路整備臨時交付金制度の継続、財源の地方移譲を行うこと。
- 3．道路特定財源の一般財源化にあたっては、受益者負担の原則のもと、道路関連予算として全額確保すること
- 4．高速道路料金の引き下げについては、物流の効率化や一般道の渋滞解消、観光振興など、その効果は大きいことから、恒久措置とするとともに、高速自動車国道及び本州四国連絡道路等に限定せず、地方の道路公社等が管理する高規格幹線道路についても実施できるよう、財政措置を含め制度化すること。
- 5．高齢化社会を迎え、健康志向も相まって郊外の道路を散歩する人口も増えていることから、都市部近郊の国道の歩道を両側に整備するとともに、休憩用ベンチやトイレを設置など、人に「あたたかい道路」の整備、並びに道路景観の向上を図る活動に対して支援すること。
- 6．健康志向や省エネ対策として自転車利用者が増加していることから、交通安全対策として自転車道を整備すること。
- 7．国の道路関係業務の経費節減に伴う、広報広聴経費の半減にあたって、事業パンフレット等は事業施行にあたって住民の理解と協力を得るためのツールとして必要であり、所要の資料等を今後とも作成すること。

今後の道路行政についての意見・提案

- 1 地域の現状と抱える課題（その１）

宮城県気仙沼市

○ 現状

1．三陸縦貫自動車道、大島架橋の必要性

本市をはじめとする三陸沿岸地域は、高速交通体系の整備が遅延していることから、市民生活の利便性の向上はもとより、産業・経済・文化等の振興発展や広域連携に支障が生じている。

一方、高度救命医療や専門医療については、仙台市等の高度医療施設に依存しており、緊急搬送や通院に要する時間短縮が、住民の命を守るための喫緊の課題となっているとともに、三陸沿岸地域は地震・津波の常襲地帯であり、近い将来高い確率で発生が予想される、宮城県沖地震や津波災害時における既存道路の寸断、集中豪雨の際の冠水による交通制限など、脆弱性が指摘されている。

2．通学路における安全対策の強化

本市は、リアス式海岸特有の平坦地の少ない地形のため、高台に位置する学校施設が多くあり、この周辺には住宅が連担するなど、十分な歩道幅員が確保できない箇所が存在し、児童・生徒の安全確保に支障を来している。

3．高齢者が安心できる生活道の整備

生活道についても、狭隘なため緊急車両の通行が困難な地域もあることから、高齢者の増加に伴う救急医療や災害時等の対応に影響が生じている。

○ 課題

1．道路は、生活に密着した最も基本となる社会基盤であり、その整備が強く求められている。

特に、拡大しつつある地域間格差を是正し、地域の活性化を図るとともに、住民が安全で安心して暮らせる地域づくりを進めるため、「命の道」として三陸縦貫自動車道や県道大島浪板線「大島架橋」をはじめとする生活幹線道路の早期整備が急務となっている。

2．市域の道路整備については、歩道設置などの交通安全対策の施設とともに、幹線道路、生活道路の計画的な整備を進める必要があるが、地形上の制約により用地確保や工事に多額の事業費を要するため、安定した整備財源の確保が課題となっている。

3．良好な道路景観の向上と環境美化を図るとともに、花壇管理作業等を通して良好な地域のコミュニティ形成も図られているが、行政として参加者等への継続的な支援が必要となっている。

今後の道路行政についての意見・提案

- 1 地域の現状と抱える課題（その２）

宮城県気仙沼市

○ 現状

- 4．幹線道路整備と安全な生活環境を支える道づくり
人口減少に伴う集落機能の低下が懸念されるなかで、日常的な交流はもとより、災害発生時における集落間連絡のための幹線道路の整備と、安全な環境整備を支える道づくりが求められている。
- 5．都市計画道路の整備
市街地における都市計画道路の整備を推進し、交通の円滑化や歩行環境の整備を図っている。
- 6．道路景観の向上と環境美化
本市では、国道を中心に県道や市道沿線において、地域と行政とのパートナーシップによる花いっぱい運動を展開し、道路景観の向上と環境美化による「ゆとりと潤いのまちづくり」を推進している。

○ 課題

今後の道路行政についての意見・提案

- 2 地域の目指すべき将来像

宮城県気仙沼市

- 1 . 三陸縦貫自動車道や大島架橋をはじめとする生活幹線道路の整備により、生鮮品等の輸送の円滑化や、地域間交流の拡大、観光客増加など、地域間格差の是正と経済の活性化を図るとともに、救急医療や災害時における救援活動や緊急輸送の円滑化により、市民の安全・安心を確保する。
- 2 . 近年、急速に進行する少子高齢化に対応するため、児童・高齢者福祉施策に限らず、児童・生徒や高齢者が安心して生活できる基盤の整備を通じ、本市が推進する少子高齢化施策を展開するとともに、人口減少に伴う集落間交流の機能強化や、狭隘道路の解消や災害発生時の避難路などに資する社会基盤の整備を進め、経済活動の円滑化と豊かな地域コミュニティの形成、安全で安心な市民生活を確保する。

今後の道路行政についての意見・提案

道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）（その１）

宮城県気仙沼市

○ 重点事項	○ 代表事例	○ 期待する効果や評価等	○ その他
高規格幹線道路等のネットワーク整備	三陸縦貫自動車道	三陸縦貫自動車道等の整備は、水産物や農産物等の生鮮品の消費地への輸送時間の短縮による競争力の強化や販路拡大等が図られるとともに、地域間交流の円滑化による交流人口や観光客の増加、自動車関連産業等との技術連携も期待されるなど、地域経済の活性化と就業機会等も増加する。 救急医療面では、高度医療機関への搬送時間の短縮となり、救命率の向上が図られるとともに、災害時の緊急輸送路が確保される。	・ 物流の円滑化 ・ 企業立地 ・ 観光振興 ・ 救急医療
	一関・気仙沼間地域高規格道路	沿岸部と内陸部との連絡を強化し、「黄金酒街道」などの観光交流の促進と、産業・経済・災害救援等に係る相互連携を強化する。	
地域の生活幹線道路整備	県道大島浪板線「大島架橋」	本土との常時往来が可能となり、救急医療における安心の確保や、通勤、通学、通院及び買い物など大島島民の日常生活の利便性が大きく向上する。	
	市道小鯖鮪立線	地域の幹線道路としてバス路線の確保や、災害時の緊急避難道路確保とともに、漁港整備に伴う水産物の輸送道路として産業振興が図られる。	

今後の道路行政についての意見・提案

道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）（その２）

宮城県気仙沼市

○ 重点事項	○ 代表事例	○ 期待する効果や評価等	○ その他
通学路における安全対策の強化	九条本線歩道設置工事	かやの実保育所、九条小学校、条南中学校、気仙沼高校等への通所・通学時の安全確保が図られる。 学校や父兄会、交通安全協会等の評価が期待される。	
都市内道路ネットワークの強化による交通の円滑化	都市計画道路 本郷古町線整備事業 主要地方道気仙沼唐桑線整備関連事業（本町橋架替整備関連事業 市道本町川口町線）	土地区画整理地と既成市街地を結ぶ環状道路の整備により、市街化の促進と道路ネットワークの形成による交通の円滑化が図られる。 中心市街地を通る主要地方道気仙沼唐桑線及び関連事業を推進することにより、産業経済文化等の振興発展や、災害避難路の整備により、安全で安心なまちづくりに寄与する。	